

2016年6月19日(日)朝10:10～  
6月第3父の日共同主日礼拝式説教

聖霊降臨節第6、自由交歓会等  
日本アライアンス庄原基督教会

## 説教題：**いま有っているものを 確り、握って居れ**

聖書：ヨハネの黙示録 2章18～29節

＜口語訳＞

新約聖書388～389頁

ヨハネの黙示録 2章18～29節

＜新共同訳＞

新約聖書454～455頁

ヨハネの黙示録 2章18～29節

＜新改訳第3版＞

新約聖書478～479頁

ヨハネの黙示2章18～29節＜塚本訳＞

新約聖書782～783頁

主題：主イエス様から賜った聖霊の導き

によって主の弟子たちは、主の名による  
神の罪からの救いを宣べ伝えたように、  
私たちも、福音を伝えたい。

序論；

- ◇ヨハネの黙示録は、1章1節、「イエス・キリストの黙示」とありますように、神の御子イエス・キリスト様が、天使を通して(1)、長老・使徒ヨハネに与えた「神の国到来の奥義」の黙示で、ローマ皇帝ドミティアヌス(81～96)時代に記録されたものと理解されています。
  - ◇ヨハネ黙示録1章1～8節は、序言ですが、前半の1～3節は、神の御子イエス・キリスト様の再臨信仰を持って生きるキリスト者への励ましのことばと黙示の神の御子イエス・キリスト様の愛の思いが、4～8節は、序言の後半、4～5節前半が「祈り、願い」、5節後半～6節が、「神への讚美」、7～8節が、ヨハネの宣言と、9～20節は、神の幻顕現とヨハネへの命令で、2章1～7節は、エペソ教会へ手紙、8～11節は、スミルナの教会へ手紙、12～17節は、ペルガモの教会へ手紙です。
  - ◇ヨハネの黙示録2章18～29節は、テアテラの教会へ手紙です。
- ⇒テアテラ教会は、ペルガモ教会の東南約56kmにある偶像礼拝と布織物の産地でした。

本論；

◇本日、ヨハネ黙示録第2章18～29節から主の使信に思い・心をとめます。

◆黙示録2章18～19節；テアテラ教会は、  
①善い行い、②神への愛、③神への信仰、  
④神への奉仕、⑤忍耐という5つの善いものを備えていました。

◇18～29節；塚本訳◆テアテラ教会への手紙

「18 また、テアテラ教会の御使いに(斯く手紙を)書け、神の子、【その】目は焰のよう、その足は真鍮に似ている者が斯く言うと—  
19 私はお前の(善い)業、(すなわち、)お前の愛と信仰と働きと忍耐と、そしてお前の後の業は先のものよりも大きく(立派で)あることとを知っている。(私はこれを褒める。)」  
と、ヨハネは主からの手紙を書き、天使宛に送りました。

◇18節；「テアテラ教会」への神の御子イエスキリスト様は、「神の子、【その】目は焰のよう、その足は真鍮に似ている者」と、ヨハネ書いています。

⇒「**焰のような目**」は、ヨハネ黙示録2章23節で解説されていますように、「(人の最も隠れた所である)腎臓をも心臓をも尋ね究め(て、彼らを罰す)る者であることを知る(に至る)で」お方の心の奥底の思い<(人の最も隠れた所である)腎臓をも心臓>を見透せる目で、厳しい裁きの目ですが、同時に「**悔い改める者**」には、**慈愛の目**です。

◇19節;テアテラ教会は、「(善い)業<sup>ἔργον</sup>」、「愛<sup>ἀγάπη</sup>」、「信仰<sup>πίστις</sup>」、「働き・奉仕<sup>διακονία</sup>」、「忍耐<sup>ὑπομονή</sup>」の5つの善いものを有っていると<お前の後の業は先のものよりも大きく(立派で)あることとを知っている。(私はこれを褒める。)>の善い評価が、神の御子イエス・キリスト様によって与えられています。

⇒テアテラ教会は、「**後の業は先のものよりも大きく(立派で)ある**」と評価された**霊的に成熟**していたと思われれます。

⇒OS師は、**テアテラ教会**の5つの善いものに愛のわざに意を尽くす姿を見、**エペソ教会**の知性＝教理教義の正しさは、愛の欠如を生んだと見、両面兼備を訴えています。

◆ 黙示録2章20～23節 ; テアテラ教会は、イゼベルによる偶像礼拝と不品行生活への陥落へ多くの人々が巻き込まれました。

◇ 18～29節 ; 塚本訳 ◆ テアテラ教会への手紙

「20 しかしながら、お前を責めねばならぬことがある。それは、お前が(あの妖婦——(勝手に自分で)自分を女預言者と称して、私の(善い)僕達を教え惑わし、淫行を行わしめ、偶像の供物を食わせる(あの)女エゼベルを(黙って)放って置くことである。

21 私は(度々彼女を、戒め、)彼女に悔い改めの時を与えたけれども、彼女は(私の言に従って)その淫行から悔い改めようとしない。

22 (だから)視よ、私は彼女を(その快樂の床から疫病の)床の中に投げ入れる。そして彼女と姦淫を犯している者も、もし彼女(から惑わされた淫行)の(忌まわしい)行為から悔い改めないならば、大きな患難に投げ入れる(であろう)。

23 そして、彼女の子供らを(も)疫病をもってうち殺すであろう。斯くして全教会は、私が(人の最も隠れた所である)腎臓をも心臓をも尋ね究め(て、彼らを罰す)る者であることを知る(に至る)であろう。そして(また、)私はお前達の業に従って一人一人に報ゆるであろう」と、ヨハネは主からの手紙を書き、天使宛に送りました。

◇20～21節；「預言者と自称するイゼベル」と「その仲間」、イザベルの教えに忠誠を誓う者(子たち)は、テアテラ教会を大混乱に巻き込んだと、ヨハネ書いています。

⇒「神の子、【その】目は焰のよう、その足は真鍮に似ている者」が、愛のわざには知性に欠如があるテアテラ教会へ「イゼベル」と「その仲間」が、悔い改めないことが告げられます。

⇒テアテラ教会の「忍耐ὕπομονή」以上の忍耐をもって、「イゼベルら」に「悔い改め」の機会を提供しつづけて下さる神の愛が示されます。

⇒「イゼベル」は、「悔い改め」によって、神の子の仲間に加えられるのです。

◇**22～23節** ; 「イゼベル」への裁きは、「**偶像礼拝**」に伴う「**姦淫の床・快樂の生活の床**」が、「**病気の床**」に変えられるという「**厳しい**」ものです。

⇒「**床**」には、病気や疫病ということばは付加されていませんが、多くの翻訳聖書が病の床と理解しています。

⇒**神**は、**神の憐れみの機会**への「**悔い改め**」の無視が、どんな悲しみをもたらすかを明確に啓示しておられるのです。

⇒「**神の子、【その】目は焰のよう、その足は真鍮に似ている者・神の御子イエス・キリスト様**」は、外観の「**イゼベルの不品行**」だけではなく、内面の「**(人の最も隠れた所である)腎臓をも心臓をも尋ね究め(て、彼らを罰す)る者**」であることが、啓示されています。

⇒確かに、臨床心理で心の分析が多方面から行われていますが、「**神の子、【その】目は焰のよう、その足は真鍮に似ている者**」の目のみが、「**(人の最も隠れた所である)腎臓をも心臓をも尋ね究め(て、彼らを罰す)る者**」です。

◆ 黙示録2章24～29節 ; テアテラ教会は、  
① 善い行い、② 神への愛、③ 神への信仰、  
④ 神への奉仕、⑤ 忍耐という5つの善いもの  
ゆえに天上での諸国の民の支配権・権威が  
与えられるとの約束が啓示されています。

◇ 18～29節 ; 塚本訳 ◆ テアテラ教会への  
手紙

「24 しかし(この)他のテアテラの人達——  
この(エザベルの)教えを受けず、いわゆる  
「サタンの深い所」を知らなかったお前達に  
私は言う——私は(何も新しい)他の重荷を  
お前達に負わせ(ようとは思わ)ない。

25 ただお前達は、私が(再び)来る(時)まで、  
(いま)有っているものを(確り)握って居れ。

26 勝利を得て最後まで私(に対する信仰)の  
業を保つ者には、諸国の民の支配権を  
与え、

27 彼は(聖書にあるように、)鉄の杖を以て  
彼らを牧し、(彼に手向かう者を)土の器の  
ように打ち砕くであろう。

28 そして私が私の父から(それを)戴いた  
ように、彼にもまた暁の明星を与えるで



あろう。(彼は斯くして新しい救いの光に接することが出来るであろう。)

29 耳を有っている者は、御霊が(全)教会に言い給うことの何であるかを聴け」と、ヨハネは主からの手紙を書き、天使宛に送りました。

◇24～29節；「サタンの深い所」を知らなかったお前達に私は言う、「私は(何も新しい)他の重荷をお前達に負わせ(ようとは思わ)ない」、「私が(再び)来る(時)まで、(いま)有っているものを(確り)握って居れ」、「勝利を得て最後まで私(に対する信仰)の業を保つ者には、諸国の民の支配権を与え、鉄の杖を以て彼らを牧し、(彼に手向かう者を)土の器のように打ち砕く」、「暁の明星を与える」、「耳を有っている者は、御霊が(全)教会に言い給うことの何であるかを聴け」と、ヨハネは、神が高く評価された5つの善いもの(①善い行い、②神への愛、③神への信仰、④神への奉仕、⑤忍耐という5つの善いもの)を保持している者たちに「諸国の民の支配権を与え、暁の明星を与える」と、約束されました。

## 結論；

- ◇神は、変わらない愛と思いやりの神です。
- ◇ヨハネの黙示録は、1章1節、「イエス・キリストの黙示」とありますように、神の御子イエス・キリスト様が、天使を通して(1)、長老・使徒ヨハネに与えた「神の国到来の奥義」の黙示で、ローマ皇帝ドミティアヌス(81～96)時代に記録されたものと理解されています。
- ◇ヨハネ黙示録1章1～8節は、序言ですが、前半の1～3節は、神の御子イエス・キリスト様の再臨信仰を持って生きるキリスト者への励ましのことばと黙示の神の御子イエス・キリスト様の愛の思いが、4～8節は、序言の後半、4～5節前半が「祈り、願い」、5節後半～6節が、「神への讚美」、7～8節が、ヨハネの宣言と、9～20節は、神の幻顕現とヨハネへの命令で、2章1～7節は、エペソ教会へ手紙、8～11節は、スミルナの教会へ手紙、12～17節は、ペルガモの教会へ手紙です。
- ◇ヨハネの黙示録2章18～29節は、テアテラの教会へ手紙です。

- ⇒「さばき」は、**神の専権事項、恵みも、神の専権事項、「神礼拝σέβομαι」に全力を注ぎたい。**
- ⇒「**祈り、願い、讚美、再宣言**」と「**神の愛と恵み**」は、**神のしもべの使命**です。
- ⇒ヨハネに**黙示**されたことは、「**神礼拝をするσέβομαι**」ことに、「**(主にある)患難、王国(における幸福)、イエス(来臨)の待望**」をもって戦う「**ヨハネの兄弟**」とされたことを**光栄に思う神の教会の人々**によって**継承される**のです。
- ⇒「**テアテラ教会**」は、(①**善い 行い**、②**神への愛**、③**神への信仰**、④**神への奉仕**、⑤**忍耐**という**5つの善いもの**)を堅持し、「**イゼベル**」の教えも、**受け入れなかった人々**を持っていた。
- ⇒「**(人の最も隠れた所である)腎臓をも心臓をも尋ね究め(て、彼らを罰す)る者**」が、心の奥深くを**探しても**、**5つの善いものは失われず**、むしろ**神への愛の行い等は**、「**お前の後の業は先のものよりも大きく(立派で)あることとを知っている。(私はこれを褒める。)**」と、**高い評価は変わらなかつた**のです。
- ⇒「**私が(再び)来る(時)まで、(いま)有っているものを(確り)握って居れ**」を私たちも**堅持**したい。